

令和7年度学校自己評価システムシート(県立越谷北高等学校)

目指す学校像	高い理想と豊かな人間性を兼ね備えたグローバルリーダーを育成する。
--------	----------------------------------

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> すべての教育活動における「主体的・対話的で深い学び」によって、一人一人の生徒の主体性を伸長する。 理数教育やSSHの取組の充実と「リベラルアーツ」教育の実現によって、グローバル人材としての資質を高める。 地域と連携し、高い進路目標を掲げ、自己実現を目指す学校の情報を発信し、学校の評価を高める。
------	---

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日は、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	9名
	生徒	5名
	事務局(教職員)	10名

年度目標		年度評価(1月29日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	達成度	
1	【現状】 ○1人1人1台端末環境に対応して、授業におけるICTの活用、教材の共有化、BYODの活用は進んでいる。 ○「主体的・対話的で深い学び」や「リベラルアーツ教育」における実践が充実している。 ○学校行事や部活動を通じて生徒の「主体性」を伸長するための取組が浸透してきている。	①ICTの効果的な活用 a ICTの効果的な活用と指導法の共有化の促進 b 全学年1人1台端末の環境に対応したBYODの活用方法の共有	ア タブレット、プロジェクター等、ICTを活用する授業の工夫に取り組めた。 イ ICTを活用する授業実践が確立し、生徒の学力向上につながった。 ウ 全学年1人1台端末の環境に適した指導体制が整ったか、また活用方法を共有できたか。	①ICTの活用が進み、ほぼ達成できた a ICTを授業で活用、ICT教材等の共有、BYODを授業で活用した教員は、それぞれ81.9%(前年比+0.3)、57.6(同-8.2)%、75.8%(同+15.3)でICTの活用は良好である。教材の共有等をさらに進めた。 b Ipadの活用が有効と回答した生徒94.3%、保護者92.0%でいずれも高い数値。iPadの活用が全学年で可能となり、体制が整った。
	【課題】 ①全学年1人1台端末とされる環境に対応した指導法の確立と活用のための研修 ②「深い学び」に向けた指導の検証と工夫・改善 ③すべての教育活動において生徒に考えさせ、主体性を育む指導の確立	②「深い学び」の検証と研究 a 「リベラルアーツ」教育の充実を目指した授業の実践 b 主体的・対話的な学びへの啓発 c 「深い学び」へ導く指導法の研究と実践	ア 「授業において」「リベラルアーツ」の必要性を確認した視野の拡大や教科横断型の知識の習得に取り組めたか。 イ 主体的に深く掘り下げて学んだ経験をした生徒は増加したか。 ウ 「主体的に学ぶ力」を高めるための指導や「深い学び」を意識した指導に取り組み教員は増加したか。	②全職員で一致して取り組み、おおむね達成できた a 視野の拡大や教員の取得を意識した授業に取り組んだ教員は97.0%(前年比+4.9)と極めて良好だが、それに期待する生徒は80.8%(同-11.5)と乖離がある。さらに改善したい。 b 主体的・対話的な授業を実践した教員は97%で昨年同様高水準。 c 「深い学び」を意識した授業改善に取り組んだ教員は94%で昨年同様高水準、一方、深く掘り下げて学ぶ経験をした生徒は83.4%(同-3.4)とおおむね高水準だが、やや乖離がある。「深い学び」をさらに発展させたい。
		③学校行事と部活動の充実と「主体性」を伸ばすための取組 a 生徒の「主体性」を高めるための意識啓発及び取組の工夫・改善 b 部活動における顧問と生徒との目標や計画の共有化 c 生徒主体の学校行事等の実施	ア 生徒に自ら考えさせ、生徒が自律的に行動する生徒指導や、生徒の主体的な教育活動の工夫・改善は行われたか。 イ 部活動の目標や計画について顧問と生徒、保護者で共通理解し、信頼関係はできているか。 ウ 生徒主体で実施された学校行事等は増加し、生徒の満足度が向上したか。	③生徒の主体性を尊重する教育を行い、ほぼ達成できた a 生徒の「主体性」を高めるための意識啓発に取り組んだ教員は96.9%で昨年同様高水準。 b 部活動における顧問と生徒の目標・計画の共有化に取り組んだ教員は81.9%と昨年同様高水準、一方、生徒は79.4%、保護者も76.7%で良好である。また、部活動が活発だと回答した生徒は92.1%で、部活動指導は充実している。 c 部活動・学校行事で生徒の主体性を高める指導をした教員は87.9%、学校行事が活発であると回答した生徒80.1%、保護者91.7%で、学校行事は充実して実施されている。特に、文化祭、体育祭等における生徒の主体的な活動により、保護者が高く評価している。
2	【現状】 ○SSH事業は第2期3年目に入り、学校全体の取組として充実している。 ○国際交流事業に積極的に取り組み各種事業が充実している。 ○探究活動が定着し、グループワークやプレゼンテーション等の活動を実践している。	①SSH事業の全校体制での取組強化 a SSH事業の全校体制での取組の充実 b クロスカリキュラムの全校体制での取組の拡充 c 理科科生徒研究発表会の充実	ア SSH事業の生徒・保護者アンケートにおける評価は向上したか。 イ 全校体制で取り組むSSH行事は適切に実施できたか。 ウ クロスカリキュラムのシラバスと指導案の作成、授業実践は適切に行われたか。 エ クロスカリキュラムの実践を通して生徒の学びが広がったか。 オ 課題研究発表会が充実し、プレゼンテーション能力は向上したか。	①全校体制で取り組み、おおむね達成できた a 全校体制でSSH事業に取り組んだ。SSHに関する情報提供が適切と回答した生徒70.6%、保護者76.3%で、ほぼ例年通り。SSHに対する理解度は高い。 b クロスカリキュラムで学びが広がると回答した生徒は69.5%(前年比-3.7)で、この3年間ほぼ3割で推移している。取り組みが定着してきている。 c 理科科研究発表会は、生徒の主体的な研究活動と教員の充実した事前指導が相まって、レベルの高い発表会が実現した。発表はかりでなく、生徒同士の質疑応答も活発で、生徒のプレゼンテーション能力は確実に向上した。
	【課題】 ①SSH事業の「全校を挙げて」の体制の強化とさらなる充実。 ②国際交流事業におけるテーマの明確化と取組の継続と拡充 ③「理数探究基礎」「総合的な探究の時間」「理数課題研究」の充実による課題発見力・課題解決力の育成	②グローバル人材育成のための国際交流事業の充実 a オーストラリア派遣を主軸とした海外研修の実施 b グローバル人材育成のための各事業への参加意欲の啓発 c 授業実践を通じた国際交流感覚の醸成とプレゼン能力の向上	ア 「今年度から実施されるオーストラリア派遣の海外研修等は効果的に実施されたか。 イ 大使館訪問、グローバルリーダーズプログラム等の参加生徒は増加したか。 ウ 授業を通じた国際交流の取り組みは充実し、プレゼンテーション能力は向上したか。	②グローバル教育の充実にも努め、ほぼ達成できた。 a オーストラリア派遣研修、フリティッシュビルズ研修、TGG研修など、多様な研修機会を設け、多数の生徒が参加することができた。 b グローバルリーダー育成プロジェクトへの参加および成果報告、大使館訪問などを通して生徒の国際的視野の育成、異文化理解を進めることができた。 c インドの高校生とオンラインでの交流など、画期的な企画を実施し、生徒のプレゼン能力を高めることができた。
		③探究学習を通しての課題発見力・課題解決力の育成 a 普通科の「理数探究基礎」と「総合的な探究の時間」の計画的な実施 b 理科科の「理数課題研究」の充実 c 北高探究の日を活用した実践発表	ア 「理数探究基礎」と「総合的な探究の時間」は計画に沿って効果的に実施・指導できたか。 イ 「理数課題研究」の充実が図られたか。 ウ 北高探究の日や探究活動を通してプレゼンテーション能力が向上したか。	③学校全体で取り組み、ほぼ達成できた。 a 学年を主体とした綿密な計画のもと、生徒の主体的な探究活動を進めることができた。また、外部講師による探究活動キックオフ講演会を実施するなど、活動が一段と充実した。 b 各グループの活動は充実しており、プレゼンも内容が濃かった。課題発見力・解決力が期待できると回答した生徒は71.2%、保護者80.6%であった。 c 2月7日(土)に実施予定。順調に準備が進んでいる。当日は、見学に来る中学生に対してもアピールする取り組みとなっている。
3	【現状】 ○50%程度の生徒が国公立大学又は民間私立大学に進学している。 ○ICTを有効活用した情報発信が行われている。 ○異校種交流や、地域社会との交流が実践されている。	①キャリア教育を通して、高い進路希望を維持・実現させる取組の充実 a 3年間を通じた計画的なキャリア教育の実践 b 高い進路希望を持ち続け、その実現につなげる指導の充実 c 進路希望に応じた講習の充実	ア 3年間を通じたキャリア教育、進路指導はできたか。 イ 高い進路希望を持たせる指導の工夫改善はできたか。 ウ 受験対策指導、生徒個別指導や保護者面談は適時、適切に実施できたか。 エ 大学入学共通テストに対応した指導の工夫改善はできたか。 オ 大学入学共通テスト5教科以上受験者の割合は増加したか。	①きめ細かい進路指導を行い、ほぼ達成できた。 a 受験対策だけでなく進路指導(キャリア教育)に取り組んだ教員は84.8%(前年比-4.7)で、例年同様高い水準。 b 高い進路希望を実現させる指導に取り組んだ教員は90.9%(前年比+1.4)で、依然として高い水準である。 c 進学講習が適切であると回答した生徒87.8%、保護者89.2%で、ほぼ例年通りで高い評価。長期休業中、早朝、放課後に計画的に実施した。
	【課題】 ①キャリアを考えさせる指導と高い進路希望を維持・実現させる指導の両立 ②ICT等を活用した適時・適切な情報発信 ③異校種交流や地域交流のさらなる充実	②ICT等を活用した教育活動の情報発信 a ICTを活用した情報発信の充実 b 生徒募集対策の実施内容・方法の効率化と充実	ア 本校の魅力や生徒の活動をICTを活用して適切に情報発信できたか。 イ 生徒・保護者の情報発信に関する肯定的評価は増加したか。 ウ HP・インスタグラムの閲覧数は増加したか。 エ 中学生の本校に対する評価が高まり、本校志望者数が増加したか。	②効果的・効率的な情報発信に努め、ほぼ達成できた。 a Google ClassroomやHP、インスタグラムによる情報発信を高頻度で実施した。評価した生徒89.7%、保護者96%で、効果が確認できた。 b コシキタ進学フェア、学校説明会を生徒主体で実施し、好評を得た。また、土曜公開授業を年8回実施、ミニ学校説明会を行い、多数の参加者があった。
		③地域や異校種との交流の充実 a 各種交流活動への参加や実施	ア 部活動や生徒会による地域や異校種との交流は適切に実施できたか。 イ 参加する生徒が増加したか。生徒が成長したか。満足度が向上したか。	③生徒会や部活動で熱心に活動し、おおむね達成できた。 a 特別支援学校との交流は、本校文化祭への特別支援学校生徒の来訪、特別支援学校の生徒会の訪問の2回実施し、心の通った交流ができた。また、男子バレー部員の小中学校との交流会を例年通り実施した。今後、さらに地域との交流を深めていく必要がある。

学校関係者評価	実施日 令和8年2月2日
学校関係者からの意見・要望・評価等	<p>①授業研修週間の研究授業の実施、および教科研修会の実施により、教科指導力の向上を果たした。</p> <p>②教員は生徒の視野拡大・教養涵養に努め、「深い学び」を意識した授業を行っているが、生徒の意欲をさらに高める必要がある。</p> <p>③部活動・学校行事に対する教員、生徒、保護者の認識はほぼ一致しており良好である。</p> <p>グローバルリーダー育成プロジェクトその他多様な国際交流機会が設けられている越谷北高校で、生徒の成長している姿を確認することができている。これからも充実した活動を続けてほしい。</p> <p>探究活動では、生徒同士議論したり、探究したことがらを発表することを生徒が楽しみながら行っている点が高く評価できる。一人一人がそれぞれの意見をもっている、というのが大学で研究を行う上でも有意義だ。</p> <p>外部連携では、部活動による地域のイベントへの参加や、生徒会による特別支援学校との交流などに、生徒が意欲的に取り組んでいる様子が確認できた。今後は同窓会も学校との交流を充実させていく必要がある。学校からの情報発信として、ホームページやインスタグラムを活用することは有効だ。これからは多くの部活動からインスタグラムの発信を充実させてほしい。</p>